

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 3
開講期間 / Class period	2016/04/06 ~ 2016/07/25		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20160587046102	科目番号 / Subject code	05870461
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 14321_005		
授業科目名 / Subject	文化の交流と共生 (世界と日本の文化交流) / Cross Cultural Exchange between Japan and the Rest of the World		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	野上 建紀 / Takenori Nogami		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	野上 建紀 / Takenori Nogami		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	野上 建紀 / Takenori Nogami		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育G棟38 / RoomG-38		
対象学生 (クラス等) / Object Student			
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	nogami-takenori@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	多文化社会 1号館		
担当教員TEL / Tel	095-819-2919		
担当教員オフィスアワー / Office hours	随時 (メールにて要事前連絡)		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	考古学の資料の中でも陶磁器は、最も多く出土するものの一つである。壊れやすく、再利用が難しいことから、廃棄されやすく、かつ土中や水中にあっても消失することなく残るからである。また、世界各地で生産され、それぞれの地域や時代を映す「鏡」となることから最も重要な資料の一つでもある。陶磁器を観察すれば各地域の文化や相互の影響関係も理解することができるのである。日本の陶磁器も世界各地の需要に応えた時期があり、それは長崎から運ばれていた。陶磁器を通して、その背後にある文化交流を読み解き、日本と世界の関わりを理解できるようになることが授業の目的である。		
授業到達目標 / Goal	世界に輸出された日本の陶磁器について説明することができるようになる。日本の陶磁器が世界に与えた影響を説明することができるようになる。世界情勢で日本の陶磁器の輸出が発展した過程を説明することができるようになる。日本(特に長崎)と海外との関わりを示す考古資料を説明することができるようになる。		
授業方法 (学習指導法) / Method	プリントや画像、映像資料、パワーポイント等を利用して、具体的な遺跡やその資料を提示しながら、講義を行う。講義の中で適宜、図や写真を観察しながら情報を引き出す作業を行う。適宜、課題を課す。予習・復習のために長崎市内の関連遺跡や博物館施設の見学を強く勧める。		
授業内容 / Class outline / Con	第1~2回は授業全体のオリエンテーションとして、考古学と陶磁器について概説する。第3~5回は、「海のシルクロード」を中心に特に海を介した文化交流についてみていく。第6~12回は世界に輸出された日本磁器を題材に、世界と日本の文化交流を考える。その内、第8・9回は日本磁器の海外輸出の時代背景をみる。そして、第10~12回はアジア・ヨーロッパ・アフリカ・アメリカなど地域毎に輸出された日本磁器をみながら、世界と日本の文化交流を考える。第13~14回は戦争と考古学について考える。第15回は授業を総括し、最終試験あるいは最終レポートを課す。		
キーワード / Key word	陶磁器、文化交流、水中考古学		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	適宜、プリントを配布し、教科書は使用しない。参考書は授業の進捗に応じて紹介する。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	レポート・小課題の提出状況 75点 (合計点を75点満点で換算)、最終試験 (あるいは最終レポート) 25点の計100点		
受講要件 (履修条件) / Requirements	授業内容に関連する長崎市内の施設・遺跡の見学を授業の予復習とする。		
アクセシビリティ / Accessibility	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) / Remarks (URL)			
学生へのメッセージ / Message for students	質問や相談は気軽に研究室へ(事前にメールをください。)		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time (date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	授業のオリエンテーション(講義全体の内容や取り組み方などを説明する。)		
第2回	陶磁器と考古学(陶磁器に関する概説)		
第3回	海のシルクロード概論(海を介した文化交流の概要を説明する。)		
第4回	水中考古学概論(海のシルクロード研究において重要な位置にある沈没船研究の方法論を紹介する。)		

第5回	沈没船からみた陶磁器貿易
第6回	日本磁器の誕生
第7回	磁器生産の本格化
第8回	磁器の海外輸出の始まり(1)
第9回	磁器の海外輸出の始まり(2)
第10回	海外輸出された磁器(1)
第11回	海外輸出された磁器(2)
第12回	海外輸出された磁器(3)
第13回	戦争と考古学(1)
第14回	戦争と考古学(2)
第15回	陶磁器からみた文化交流(総括)
第16回	最終試験(あるいは最終レポート)

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 4
開講期間 / Class period	2016/09/30 ~ 2017/01/30		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20160587046302	科目番号 / Subject code	05870463
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 14331_005		
授業科目名 / Subject	文化の交流と共生 (芸術で見る世界と日本) / The World as Seen through the Arts		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	王 維 / Wan Uei, GRAJDIAN MARIA MIHAELA / Grajdian Maria Mihaela, 野上 建紀 / Takenori Nogami		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	王 維 / Wan Uei		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	王 維 / Wan Uei		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育G棟38 / RoomG-38		
対象学生 (クラス等) / Object Student	教育・経済・薬学・水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	wangw@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	多文化社会学部 1号館 1階王研究室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2913		
担当教員オフィスアワー/Office hours	随時 (ただし、事前にメールで連絡すること。連絡先: wangw@nagasaki-u.ac.jp)		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	地球に暮らすあらゆる民族は、異なる自然環境、言語や宗教、或いは歴史や社会などの環境に対応し、周辺の民族と交流しながら、その社会でのアイデンティティに支えられた固有の祭礼、芸能や音楽をもってきた。民族音楽学や世界音楽などの見方から、東アジア地域を中心とする多彩な祭礼、芸能や音楽を通して様々な世界を見る視点を学ぶ。		
授業到達目標/Goal	芸術 (祭礼・芸能など) で見る世界と日本というテーマに関する基礎的知識を習得する。 グローバルの視点から、多様な世界と日本を理解する。 異なる音楽文化を通して、広い視野から世界を見る能力を養う		
授業方法 (学習指導法) /Method	1. 授業は主に講義形式で行うが、テーマに関連する写真の資料やビデオなどの視覚教材も利用する。 2. 常時に感想、質問、疑問などを小レポートにまとめてもらい、それのもとに質疑応答やテーマに関する議論をしたい。受講生には自分なりの問題発見、問題調べなど学習意欲を持って望むことが求められる。		
授業内容/Class outline/Con	激動する国際社会のなかで民族という言葉がキーワードの一つとなり、諸民族の音楽文化もより広く関心をもたれるようになってきた。今、グローバル化のなか、社会全体に国際理解が重要視されているが、世界の音楽文化も異文化理解の手がかりとしてその重要性が増していると考えられる。本授業は民族音楽学及びそれに関連する理論を総観したうえ、音楽、文化、社会そして民族の視点、東アジア地域を中心に諸民族の音楽文化の事例を通して、民族にとって音楽とは何か、諸民族がつかかってきあ「知」の体系に音楽がどんな役割をはたしているのか、なぜ音楽文化が異文化交流や異文化理解の重要な手がかりになるのか? などについて検討し、音楽の側面から世界を理解する視点を学ぶ。		
キーワード/Key word	音楽、異文化交流、芸能、アイデンティティ、民族 (エスニック)		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	徳丸吉彦 『民族音楽学』放送大学教育振興会、1991年。『民族音楽理論』1996年 藤井知昭他編 『民族音楽概論』東京書籍、1992年 柘植元一・塚田健一編 『はじめての世界音楽』音楽之友社、1999年 山口修 『応用音楽学』放送大学教育振興会、2000年 その他、随時紹介		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	試験及び課題レポートの得点統計に出席率を掛けたもので判定する。試験50% レポート50%。欠席した授業内容にかかるレポートの提出は受け付けない。		
受講要件 (履修条件) /Requirements	出席と予習・復習が不可欠。授業外学習に充てるべき時間は週平均2時間以上とする。実際の進展状況に応じて授業計画を変更する場合がありますので注意されたい。		
アクセシビリティ/Accessibility	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員 (上記連絡先参照) または「アシスト広場」(障がい学生支援室) にご相談下さい。 アシスト広場 (障がい学生支援室) 連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) /Remarks(URL)			
学生へのメッセージ/Message for students	「すべての民は音楽的思考を行う」という言葉を聞いたことがありますか。この授業を通して世界を見るもう一つの見方を考えましょう		
授業計画詳細 / Course Schedule			

回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	序説 東アジアの文化圏
第2回	理論編(1)音楽を見る視点：音楽学～比較音楽学～民族音楽学 などについて
第3回	(2) 諸民族の音楽様式
第4回	(3) 楽器のハードウェアとソフトウェア
第5回	(4) 伝承と記述(楽譜)について
第6回	地域編：比較の視点から (1) 中国・漢民族 歴史の概観、劇音楽
第7回	中国・漢民族 歌舞音楽と曲芸音楽(語り音楽)
第8回	中国・少数民族—多彩な芸能と音楽
第9回	(2) 日本の伝統芸能：歌舞伎と芝居小屋 中国の劇音楽と比較しながら...
第10回	(3) 朝鮮半島音楽の語り音楽
第11回	(4) モンゴル音楽の諸相
第12回	(5) 文化の伝播・受容・変容：西アジア起源とする楽器 (中国と日本)
第13回	移動・文化交流による音楽文化のグローバル化 (1) 世界に舞う獅子舞・龍踊り
第14回	(2) 世界に響く和太鼓
第15回	まとめ：
第16回	試験

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 4
開講期間 / Class period	2016/04/06 ~ 2016/07/26		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20160587046502	科目番号 / Subject code	05870465
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 14341_005		
授業科目名 / Subject	文化の交流と共生 (アジアにおける人の移動と日本) / Migration in Asia and Japan		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	賽漢卓娜 / Saihanjuna, 野上 建紀 / Takenori Nogami		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	賽漢卓娜 / Saihanjuna		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	賽漢卓娜 / Saihanjuna		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育G棟38 / RoomG-38		
対象学生 (クラス等) / Object Student	2年, 3年, 4年		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	saihanjuna@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	多文化社会学部1号館		
担当教員TEL / Tel	095-819-2918		
担当教員オフィスアワー / Office hours	水曜日 2校時		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	「グローバル化」の進展に伴い、多様な文化的・社会的・民族的バックグラウンドを背負った人々は地球規模で移動している。本授業では、「多文化化」を加速させた日本社会に焦点を当て、日本をめぐる「ヒト」の移動 (= 移住現象) への理解を深める。		
授業到達目標 / Goal	履修者は、「より広い視野」を持つ社会の一員として、多様な文化的・社会的・民族的バックグラウンドをもった在日外国人を取り巻く困難な状況やその理由・背景を学び、かれらと「共に生きる (多文化共生)」可能性を見つける。		
授業方法 (学習指導法) / Method	本授業は基本的に講義形式で行われますが、視聴覚機材も利用します。またグループディスカッションもあります。		
授業内容 / Class outline / Con	<ol style="list-style-type: none"> 1 【イントロダクション】 2 グローバル化と「移民の時代」 3 アジア域内の移民の展開、日本の法制度 4 多文化共生をはばむ壁 5 移動研究へのアプローチ 6 移動と国家 7 日系ブラジル人を考える 8 移動と教育 9 外国につながる人々と学校を考える 10 移動とジェンダー <特別講師: 李 節子> 11 フィリピン人社会を考える 12 移動と家族 13 生活者としての結婚移住女性 14 アクティブラーニング 15 まとめ 16 試験 		
キーワード / Key word	移動 エスニシティ ジェンダー		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	本授業では、教科書を指定せず、プリントを用意します。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	授業内課題 (15%) レポート (25%) 定期試験 (60%)。		
受講要件 (履修条件) / Requirements	授業外学習は週平均2時間以上実施して下さい。		
アクセシビリティ / Accessibility	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員 (上記連絡先参照) または「アシスト広場」 (障がい学生支援室) にご相談下さい。 アシスト広場 (障がい学生支援室) 連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) / Remarks (URL)			
学生へのメッセージ / Message for students	各講義において事前に読んで欲しい資料は授業中で指示します。また、日常生活のどのような場面で外国人によく出会うのか、といった身近な出来事にも常に注意を払っておくこと。新聞などに目を通し、特に在日外国人たちがおかれている困難な状況にもセンシティブになっておくと良いでしょう。		